

平成 26 年度 エコ・ファーストの約束のフォローアップ報告
(報告会用)

企業名：東京海上日動火災保険株式会社

報告年月日：平成 26 年 6 月 18 日

No.	約束の分野	約束内容・主な項目	達成状況	備考
1	低炭素社会	<p>自らの事業活動に伴うCO2排出量の削減</p> <p>・自らの事業活動に伴う環境負荷の削減と再生可能電力の購入等により、平成24年度までに、当社のCO2排出量を平成18年度実績対比6%削減することを目指します。</p>	<p>・平成18年度の弊社CO2排出量 62,544 t に対し、平成24年度末時点で 42,332 t (▲32.3%削減)</p> <p>平成25年度末時点で 42,115t (▲32.7%削減)</p> <p>となっており、大幅に目標を上回ることができました。</p>	
2	自然との共生	<p>「マングローブ植林100年宣言」</p> <p>・当社は平成11年度より、「地球の未来にかけの保険」として東南アジアを中心にマングローブ植林事業を実施しています。マングローブは多くのCO2を吸収し蓄えることで地球温暖化の防止・軽減に役立つだけでなく、津波などの自然災害に対する防災効果もあります。</p> <p>・また、マングローブ林は「海の森」「生命のゆりかご」と言われ、植林地域の生態系保全・生物多様性の保全に貢献します。</p> <p>・このさまざまな効果をもたらすマングローブ植林事業を100年間継続していくことを目指します。</p>	<p>・2013年度末時点までに、東南アジア、フィジー、インドの9カ国で、延べ約8,405haのマングローブ植林を継続実施しました。(2012年度末時点では約7,993ha)</p> <p>・本取り組みをご評価頂き、2013年度に環境省より「平成25年度地球温暖化防止活動 環境大臣表彰(国際貢献部門)」を受賞いたしました。</p>	

3	環境教育	<p>「みどりの授業」の実施</p> <p>・平成 17 年度より社員や代理店のボランティアにより実施している、「地球温暖化防止」や「生態系保全」等をテーマとした全国の小学校等への出前授業「みどりの授業」を継続的に実施します。</p>	<p>・当社環境教育の主要取組みとして、2013 年度末までに延べ約 638 校、約 44,000 名の児童・生徒に対し実施しました。</p> <p>(2012 年度末時点では約 577 校、約 40,000 名の児童・生徒に対して実施)</p>	
4	環境金融	<p>ウェブ約款を通じたお客様参画方式の環境配慮型保険の提供</p> <p>・お客様や代理店と一緒に地球環境保護・地球温暖化防止への貢献に資する環境配慮型商品・サービスの開発を積極的に進めてまいります。</p> <p>・平成 20 年度から、主力の自動車保険や生損保一体型の保険「超保険」において、冊子の約款でなくウェブ約款をご選択いただいたお客様のご契約件数に応じて、マングローブ植林事業やカーボンオフセット事業に当社が寄付する仕組みを進めていきます。ウェブ約款の推進は、紙使用の削減にも繋がります。</p>	<p>・「Green Gift」プロジェクトとして引続き Web 約款の推進の取組みを進めており、2013 年度末までに約 870 万件の契約が Web 約款の契約となり、これに伴う紙の削減量は約 2,450 トンとなっています。</p> <p>(2012 年度末ではご契約数約 860 万件、紙資源削減量約 2,400 トン)</p> <p>・更に、約款のみならず、保険証券等まで、Web 化の取組みを広げています。</p> <p>・また、海外のマングローブ植林への寄付のみならず、2013 年度からは環境省の後援のもと、日本全国の各地で地域の NPO, NGO と協働した国内環境保護の支援にもプロジェクトの範囲を拡大しています。</p> <p>・「Green Gift」プロジェクトの取組み等を評価いただき、</p>	

			弊社自動車保険は 2010 年に金融商品として始めて(財)日本環境協会の「エコマーク」の認定を受けました。	
5	その他（気候変動研究）	<p>産学連携を核とした気候変動による主要な自然災害への影響に関する研究</p> <p>・グループの総力を挙げて、気候変動による台風をはじめとする主要な自然災害への影響に関する研究を実施します。可能な範囲で研究内容を社会へ発信し、将来的にこの研究成果を基礎として、保険事業を通じて社会・経済に貢献していくことを目指します。</p> <p>・「東京大学気候システム研究センター」や「名古屋大学地球水循環研究センター」と連携して研究等を進めてまいります。</p>	<p>・東京大学大気海洋研究所と連携し、東京大学の世界トップクラスの気候モデルを活用した「台風リスク評価の高度化」に取り組んでいます。</p> <p>・名古屋大学地球水循環研究センターと連携し、台風や爆弾低気圧などの豪雨災害をもたらす気象現象を詳細に解析し、「気候変動が豪雨災害に及ぼす影響」について研究しています。</p> <p>・さらに、2012 年度より京都大学大学院工学研究科 防災研究所と連携し、洪水リスク評価の更なる高度化を実現するため、「国内河川における流量モデル」の開発に取り組んでいます。</p>	

以上